

I

■出題のねらい

指数関数，数列，2次方程式など様々な分野の問題で，基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

見通しの立てやすい問いでした。正答できるよう練習を積んでおきましょう。

- (1), (2) よくできていました。計算ミスに注意してチェックを怠らないでください。
- (3) よくできていましたが， a ， b が「正の実数」であることを見落として解を複数解答したのために減点の対象となる場合があります。問題文を注意深く読むよう心掛けましょう。
- (4) 前半は多くの人ができでしたが，後半は導出に苦勞した人が多かったようです。基本的な知識，簡単な計算と与えられた条件を組み合わせで解を導き出す練習を重ねてください。

II

■出題のねらい

ベクトルおよびデータの分析について，基本的な事項を問いました。

■採点講評

- (1) ア，イ，ウは，よくできていました。エは，計算ミスが目立ちました。
- (2) オの分散の計算はよくできていました。カは，計算ミスが目立ちました。数値以外を記入した解答がありました。係数を求める問題ですので，数(値)を解答しましょう。

III

■出題のねらい

- (1) 複素数に関する基本的な事項を問いました。
- (2) 微積分の計算と級数に関する基本的な事項を問いました。

■採点講評

- (1)(i) $|\alpha|^2$ を計算した誤答や $\frac{1}{\alpha}$ を $a + bi$ の形にしていな誤答が散見されましたが、概ねよくできていました。
 - (ii) $\alpha^6 = 64$ の計算でやめている解答が多く、正答までたどり着けていない解答が散見されました。
- (2)(i) よくできていました。
 - (ii) 微分と積分を混同している解答が見受けられました。

IV

■出題のねらい

数学Ⅲの範囲から、微分積分の基本的な事項について問いました。

■採点講評

- (1) 微分はできていましたが、式をまとめられていない解答がありました。
- (2) 全体的によくできていました。

$f'(x)$ の符号ミスで、極大・極小を逆にしている解答がありました。
- (3) $a = (\log 3)^2$ を、 $a = \log 3^2 = 2 \log 3$ としている誤答が多く見られました。
- (4) 最後までたどり着けていたのは少数で、あまりできていませんでした。

V

■出題のねらい

整式の割り算，円と直線に関する基本的な問題で，知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 3次方程式の解はほとんどの人ができていましたが，「解の和」が要求されていることを見落とした解答がありました。解答にたどりついた後に答案を見直す注意深さが必要です。後半は剰余定理の意味を理解しておくで見通しよく正答が求まりますが，苦勞した人が多かったようです。基本的な問題をたくさん解いておいてください。
- (2) 円の方程式と半径を解の導出に直接使う基本的な問題ですが，距離を求める際の符号に注意を払うこと，計算間違いを防ぐための検算を忘れないようにしましょう。

VI

■出題のねらい

2次関数のグラフと定積分を問う問題で，基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 形が同じ2つの放物線の一方を逆さまにして重ねるだけの極めて容易な問題ですが，不正答の解答が多かったです。数学は考える学問です。落ち着いて考えれば，正答は明らかです。
- (2) 基本的な問題のためほとんどの人が正解でした。
- (3) 面積を求めますから，当然，値は正です。符号が反転している解答が多かったです。また，途中の計算を間違えているものも多かったです。計算は丁寧に行ってください。
- (4) 面積が正しく求めた人には容易な問題でした。面積を正しく求められなかった人が多かったので，この問題で得点差がついたと思われます。

I

■出題のねらい

重力波発生メカニズムを、互いに相手のまわりを回る2つの質点に置きかえて考察するなかで、運動量変化と力積の関係、運動量保存則と重心運動の関係についての理解度を問いました。更に、力学的エネルギーが散逸する場合の運動の変化の様子をイメージできるかを、作図を通して確認しました。

■採点講評

- (1) 運動量変化が力積に等しくなることの理解度を見ました。2物体間に働く力が、作用・反作用となる力だけの場合、両者に働く力積の和がゼロとなることから、運動量が保存します。ここで示した式③は、運動量の変化がゼロという意味ですが、運動量の和がゼロとする誤答が多くありました。運動量の和は初期条件で決まり、その後ずっと一定ですが、ゼロと知っているわけではありません。Δが変化量(差)を表すという意味が、理解できなかつたようです。また、このことから重心の速度変化がゼロとなることが分かり、重心は等速直線運動します。この設問の正答率はとても低かったです。数式の意味するところを正確に読み取る訓練が必要です。
- (2) 2物体の運動方程式を組み合わせて相対運動の部分を取り出して議論しました。物理の内容としては、かなり高度な議論なので、そこに踏み込むことは避けています。問題文中の説明をきちんと理解して、指示通り運動方程式を書き、力学的エネルギーを計算すればよいのですが、万有引力の式中の m_2 を換算質量 μ に書き換えてしまった誤答が多く見られました。問題文中の説明をしっかりと読むことが必要です。

力学的エネルギーが失われる(E が減少する)ためには半径が小さくなる必要があります。このとき、半径との関係を表す式から、角速度が大きくなること、回転の速さも大きくなることが分かります。エネルギーを失うということから、直感的に遅くなると判断したと思われる誤答が多く見られました。数式の意味を素直に読み解くことも必要です。運動エネルギーは増えても、位置エネルギーがその倍の量だけ減るので、力学的エネルギーは減るのです。

- (3) 相対運動を抜き出す考え方では、本来加速度運動(回転運動)している星1を原点に固定する非慣性系で考察を進めます。星2の質量を μ に置き換えることで、慣性力を持ち出すことなく議論することが可能になっています。両者が互いのまわりを回転するとみる慣性系で角速度を計算する手順を示していますので、是非自分で計算してみてください。

全体の正答率は約40%でした。力が働くと運動の様子が変化する、その変化の仕方が運動方程式で決まっている、というのが力学の基本的な考え方です。計算に惑わされて、本質が見えなくなってしまうように学習することが大切です。

II

■出題のねらい

電磁気学において有用なガウスの法則に関する問題です。前半は電気力線との関係からガウスの法則を導出する基本問題です。後半は、ガウスの法則を活用して帯電球の電場を求める発展問題です。式を証明する展開力と、作図による定性的な理解も問いました。最後に、求めた電場の理解のために電場中での点電荷の運動を考察しました。

■採点講評

全体の正答率は50%弱でした。(1)はガウスの法則を導出する問題で、出来はよかったです。□イでは、分母の指数を誤る解答が多くありました。問題中に球の表面積 S が与えられ、更に本数 N が r に関係しないという補助的な説明をしっかりと読みましょう。

(2)では、ガウスの法則を利用して帯電球の電場を求めます。ただし帯電球の内部と外部で場合分けを行う必要があり、思考力が問われる問題です。まず問1)の電気力線の作図ですが、出来はよかったですのですが、様々な誤答がみられました。矢印の向きが逆のもの、途中で切れているもの、中心 O からみて等方性がないもの、等電位面を描くものなどです。これ以後の問題では正答率が低くなりました。問2), □オ, 問3)は同程度の正答率でした。問4)の球内部の電場の証明は、ガウスの法則の理解度を確認する重要な問題です。誤答では電荷 Q が中心 O に集中しているとみなす計算がありました。

(3)は、問4)で求めた球内部の電場中に置かれた負電荷の運動を考察する問題ですが、正答率は低かったです。単振動の要素も含まれます。問5)のクーロン力では、座標 x ではなく r をそのまま用いたり、電荷 $-q$ が抜けていたりする誤答がありました。□カの周期の導出が□IIの中で最も正答率が低かったです。問6)は $\frac{1}{4}$ 倍、 $\frac{1}{2}$ 倍とする誤答が多かったです。周期が短くなるためには復元力、すなわちクーロン力が強くなる必要があります。そのため、負電荷の電気量は大きくなると推察できます。式の展開力も重要ですが、解の定性的な傾向を見抜く洞察力を身に付けてください。ちなみに(3)は、原子物理学の初期にトムソンが提案した原子模型と関係しており、正電荷が一様に分布する中で電子が動く「ブドウパン模型」に相当します。実際の原子はこの模型とは異なり正電荷の原子核が中心に存在し、電子の運動は量子論で説明されます。

全体的にガウスの法則の導出はよくできていました。一方、式の証明における論理的な展開は出来がよくありませんでした。この類の導出問題も普段から練習するようにしましょう。また、問6)のように、求めた解が定性的な傾向と合致するかどうかの判断も併せて行っておくとよいでしょう。

III

■出題のねらい

気体の基本的な性質を気柱共鳴を用いて問いました。波長，振動数，速さの間の最も基本的な性質から，反射波に対する境界の条件，定常波が成立する円筒管の条件といったどの教科書でも扱っている問題により，波の基本的な性質を理解しているかを求めました。定常波の変位の様子を描けるかという問題で音波のイメージが描けているか，音速の温度変化による共鳴条件変化についての問いでは筋道立てた説明ができるかの確認をしました。

■採点講評

正答率は約50%と予想より低い結果となりました。

波長，振動数，速さの関係から始めて気柱内での反射により気柱に定常波がたち，波の変位が場所によってどのように変化するか，順を追って考えれば容易に正解を導くことができる問題として作成しました。必要とする知識は教科書にすべて載っており，特別な知識を必要とはしないものです。定常波の変位の表現例も図示してあり，開管と閉管で反射時の条件が変化することと，開口端補正が必要なことに関しては問題文の中に記述していますので，知識が不確かであっても，問題文を丁寧に読めば理解できます。問題の(ア)から(キ)までは，教科書の記述か章末問題かで接したことがあるものと思われる。気柱の共鳴条件から波長を求める問題(オ)以下の正答率は予想外に低いものでした。

共鳴回数 N を問う問2)では，1回目と2回目の共鳴条件から始めて帰納的に考えれば，容易に求められます。問3)は逆に1回目の共鳴条件を元に考えればすぐ求めることができます。この意味で必ずしも順を追って解いていく必要はないのですが，その予想を超えて問3)のみ正解という解答が多数見られました。

問4)の問題で温度変化によって管長をどうすればよいかの説明を要求しましたが，音速が温度上昇とともに遅くなると考えている受験者が多数いました。論理を考えて理由と結論を書く必要がありますが，筋道立てた解答となっていないものが多く見受けられました。管の長さ L をどうすれば良いのかを要求しているにもかかわらず，管長以外について答えている解答もありました。まず頭の中で書く内容について整理したうえで記述するようにしましょう。語句での解答を要求した(ウ)，(エ)でも誤字による解答が非常に多く見られました。難しく書く必要はなく，容易な言葉で丁寧に考えて解答するようにしましょう。

化学

I

■出題のねらい

窒素 (N_2) と水素 (H_2) からアンモニア (NH_3) が生成する反応系を取り上げ、化学平衡について基本的な概念を問いました。

■採点講評

全体的に良くできていました。この反応系では、窒素ガスと水素ガスからの反応によりアンモニアが生成し、これらが平衡状態に達します。この反応の平衡状態を濃度平衡定数 K_C または圧平衡定数 K_P を用いて記述できるかについて問いました。

(1) アンモニアの工業的な製法は、ハーバー・ボッシュ法 (ハーバー法) といいます。ハーバーボッシュやハーバーバッシュ法などの覚え違いや、接触法 (硫酸の製造)、オストワルト法 (硝酸の製造) やアンモニアソーダ法 (炭酸ナトリウムの製造法) といった誤答も見受けられました。基本的な用語はしっかりと理解しておいてください。(2) (i) 式の意味をよく理解しておいてください。文字式を用いた問題は頻出しますので、文字式の扱いにはよく慣れておいてください。(3) 濃度平衡定数 K_C は化学平衡の法則から導きます。その際に、各気体のモル濃度を用いることに注意してください。また、文字式はそのままではなく整理して解答してください。(4), (5) 理想気体の状態方程式を用いて、圧力を求めてください。問題では気体定数 R を用いるように指定されているにもかかわらず、 8.3×10^3 [$\text{Pa} \cdot \text{L}/(\text{K} \cdot \text{mol})$] が用いられた解答もありました。問題はよく読むように心掛けてください。(6) 各気体のモル濃度 n/V [mol/L] を文字式で示し、それらを K_C の関係式に代入します。その後に、 K_P と K_C との関係を導くことができます。教科書レベルの問題ですので、正答できるようにしておいてください。(7) ルシャトリエの原理「化学平衡は、濃度、圧力、温度などを変化させると、その影響を和らげる向きに移動する」を利用して、平衡状態がどのように変化するかを問うた問題です。基本問題ですのでよく理解しておいてください。(8) 温度一定では、平衡定数は一定です。このことを理解しているとアンモニアの圧変化は理解できます。

II

■出題のねらい

周期表の2族に属する元素を題材に、電子配置や化学反応式等の化学に関する基本的な知識が正しく理解できているかどうか問いました。

■採点講評

(1) は、元素の分類や化合物の名称に関する問題で、予想以上に誤答が散見されました。典型元素と遷移元素あるいは金属元素と非金属元素の分類や性質の違いについて十分に理解してください。また、生石灰や消石灰等の化学式を混同せずに正確に覚えてください。周期表の元素の配列から、元素の化学的な性質や反応性を理解するように心掛けてください。(2) はよくできていました。(3) のアルカリ土類金属の炎色反応についてもよくできていました。(4) の熱化学方程式から発熱量を計算する問題についてもよくできていました。化学反応式を正確に書けるように心掛けてください。上昇した温度だけを答え、最終的な反応後の水の温度を答えていない受験者が見られました。文意を正確に読み取ってください。(5) ~ (7) についても化学反応式で記述された内容を書けるかを問いました。反応式中の係数に注意してください。また、元素記号の大文字と小文字を明確に書き、常に丁寧な文字を書くように意識しましょう。(8) は最も正答率が低かった問題でした。焼きセッコウとセッコウに水和している水分子の数を知らないといけない問題でした。焼きセッコウを水で練ると、発熱しながら膨張して、再びセッコウになって固まり、建築材料、医療用ギブスあるいは塑像などに用いられています。このような生活に関連している反応についても興味を持ち勉強してください。

III

■出題のねらい

芳香族化合物について、基礎的な知識を問いました。

■採点講評

全体を通じてよくできていました。

〔1〕は C_7 の芳香族化合物を題材にした基礎的な知識を問う問題でした。(1)は酸化・還元の結果生成する化合物の名称および構造を問いましたが、正答率は予想外に低く、特に構造を正解しているにもかかわらず名称を間違えている解答が散見されました。化合物名と構造式はセットで記憶しておいてください。(2)は*o*-クレゾールの構造を問いましたが、予想に反して正答率は低かったです。オルト置換体と指定しているにもかかわらず、パラ置換体などの誤答が見受けられました。(3)は、正答率は高かったです。漢字のミスが散見されました。

〔2〕はサリチル酸に関して基礎的な知識を問いました。(4)の正答率は非常に高かったです。(5)および(6)は、反応によって生成する化合物の構造式を問いました。正答率は低く、脂肪族化合物を書いている解答も見受けられました。

以上、いずれも有機化学の基礎知識があれば解ける問題であり、誤答の多くは不注意に起因するものと思われます。落ち着いて読み返す習慣をつけてください。

生物

生物の入試問題は教科書の内容を基本としており、教科書をしっかり勉強することが最大の入試対策です。教科書の図版の内容や「探究」といった項目も出題の対象になりますので、注意して勉強してください。

A1日程では「バイオテクノロジー」、「遺伝子情報とその発現」、「遺伝子の発現調節」、「さまざまな植生」、「気候とバイオーム」、「生態系のバランスと保全」、「物質循環とエネルギーの流れ」、「生態系のバランスと保全」、「生態系と物質生産」を中心に出題しました。

I

■出題のねらい

(1)では、遺伝子組換え技術で多用されるいくつかの手法について問いました。さらに、教科書でもよく掲載されている一般的な遺伝子組換え実験を題材として、実験結果を正しく解釈することができるのかを問いました。(2)では、遺伝子に関するより基礎的な内容も習得しておいて欲しいという考えから、遺伝子情報の発現と制御について出題しました。また、表からデータを読み取り、読み取ったデータを正しくまとめることができるかについても問いました。

■採点講評

正答率は約57%でした。(1)の1)の穴埋め問題では[6]の正答率が約30%で、DNAポリメラーゼを補酵素やカタラーゼなどの解答がみられました。DNAポリメラーゼは酵素なので通常は熱に弱いですが、PCR法で使うDNAポリメラーゼは好熱菌などから得られる耐熱性のポリメラーゼを使います。重要な酵素なので覚えておきましょう。[8]では、②を選んだ解答が多くみられました。バクテリオファージは、その名の通り「バクテリア」(細菌)に感染するウイルスです。「誤っているものを選べ」という指示を見落とさないようにしましょう。問題文は注意して読むようにしてください。[9]、[10]は①と⑤が正答ですが、②を選んだ解答がみられました。b)、c)の培地で使用したアンピシリンは抗生物質なので、通常は大腸菌の増殖は抑えられます。しかし、アンピシリン耐性遺伝子が大腸菌に組み込まれると、アンピシリンのある培地でも大腸菌は増殖し、コロニーが形成されます。結果5ではアンピシリンを含む培地を用いていますが、耐性遺伝子を含むDNAを取り込ませているので、コロニーが形成されることが期待されます。[11]、[12]は③と⑤が正答ですが、②、④、⑥を選んだ解答も多かったです。紫外線を照射されて緑色に光るかどうかは、GFP(緑色蛍光タンパク質)遺伝子の取り込みの有無により決まります。それゆえ、結果6、8のようにGFP遺伝子を組み込んだDNA

を取り込んでいない大腸菌では蛍光は観察されません。[14]は③が正答ですが、①を選んだ誤答が多かったです。DNAの電気泳動の場合、短いDNA断片ほど遠く（図では下）へ流れます。そのため、（一番上ではなく）一番下から順に500bp, 1000bp, 2000bpと並びます。それゆえ、目的DNA断片の大きさが1500bpであれば、下から2番目と3番目の間に移動するはずです。

（2）は表などを使って解く考察問題でしたが、比較的よくできていました。

II

■出題のねらい

（1）では、地球上の環境は多様であり、そこには様々な生物が存在することに関わる知識を確認するため、世界自然遺産に登録されている屋久島の森林生態系を題材として、森林の階層構造、土壌、バイオーム、および生物の多様性を脅かしている特定外来生物に関する内容を中心に出题しました。（2）では生態系のうち水界生態系を中心とした炭素循環とエネルギーの流れ、および水域の富栄養化に関わる知識を問う内容を出題しました。

■採点講評

正答率は約50%でした。（1）の1）では、[27]、[28]の正答率が低調でした。[27]を「落葉広葉樹」と答えた解答が多かったですが、正しくは常緑広葉樹のスタジイです。暖地性照葉樹林の代表的な樹種なので、覚えておきましょう。一方、屋久杉などのスギ、ヒノキは温帯性の針葉樹です。生態系に関する問題では植物の名前が問われることが多いので、教科書に出てくる代表的な植物について整理して学習しておきましょう。[36]では、硬葉樹林に関する基礎的な知識を聞いています。①と答えた解答が多かったですが、砂漠はツンドラより降水量が少ないです。[37]～[39]では、教科書でよく使われる図を使い、バイオームの分類を問いました。[39]がわかりづらかったようですが、砂漠とツンドラが含まれるので「荒原」になります。砂漠は乾荒原、ツンドラは寒地荒原に分類されます。[40]では日本にないバイオームを問いました。答えは雨緑樹林で、これは雨季と乾季がはっきりしている地域にみられます。亜熱帯多雨林とした解答が多かったですが、これは日本では九州南端から沖縄で見ることができます。[41]では最近テレビなどでもよく耳にするようになった特定外来生物について問いましたが、かなり難しかったようです。オオクチバスは俗にブラックバスと呼ばれ、雑食性ではなく完全に肉食性の淡水魚です。食用やゲームフィッシング目的で移入されましたが、様々な魚類や水生昆虫を捕食するため、生態系へ大きな影響を及ぼしています。

(2) では、1) の穴埋め問題はよくできていましたが、3)、4) の富栄養化に関する問題の正答率がいま一つでした。3) の正答は②です。最近では人間活動によって栄養塩類が過剰に供給されるケースが注目されていますが、水域が貧栄養状態から長期間を経て富栄養状態へ遷移する自然現象も富栄養化と呼ばれます。4) の正答は①です。水の華(アオコ、青粉)は海ではなく、湖沼や池などの淡水で発生する現象です。淡水性の植物プランクトン(おもに浮遊性ラン藻)が大発生するために起こります。緑藻やミドリムシなどが増殖しても似たような現象が起こりますが、これらは水の華とは異なるので注意してください。

I

■出題のねらい

日常的な会話の内容を正確に理解する問題です。2者のやりとりの流れを見失わないようにしながら、細かい情報を読み取ります。テーマは「チャリティマラソン」です。チャリティとマラソンがどのように結びついているのか、注意深く読んで正確に把握しましょう。

■採点講評

全体的によくできていました。□4では②“set up a charity herself”を選んだ人が多かったですが、ここでの“a charity”は「慈善団体」の意味です。カタカナ語として定着している単語も、英語としては多様な意味を持っているケースがよくあります。カタカナ語にはくれぐれも注意しましょう。

II

■出題のねらい

ある美術館のレポート記事を読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。個性的な美術館ですから、一般的知識に頼らず、注意深く読むことが必要です。事実の報告と記者の感想を区別しながら、各問で求められている情報を探していきましょう。

■採点講評

全体としてよくできていましたが、□9の正答率が低かったです。②“Check the website for the best time of year to visit the rose garden”を選んだ人が多かったです。単語だけを拾い読みするのではなく、じっくりと本文を読み込むことが必要です。重要なヒントは、be sure to ~ (必ず~してください) という表現です。日常会話でも頻繁に使われますので、覚えておきましょう。

III

■出題のねらい

本文は、バター供給不足や価格が高騰している理由を紹介した英字新聞記事からの抜粋です。(2)、(3)の問題となっている語彙以外は、基本的な語彙力で読める文ですが、問われている部分の前後だけを読むのではなく、しっかり全体の文脈を捉えていないと正確に解答できない問題になっています。また、本文の英語に照らし合わせながらグラフを理解する能力も問うています。

■採点講評

全体としてよくできていましたが、12の正答率が比較的低かったです。間違っ③て“not becoming worse in quality”を選んだ人が多かったですが、それでは本文の“not suited to long-distance transport”と整合性がとれません。知らない単語の意味も周りの文脈から推理して、文章全体の理解につなげるよう心掛けましょう。

IV

■出題のねらい

最近ニュースで報じられることが増えた人工知能(AI)に関する英字新聞記事からの抜粋です。AIの活用事例、将来の適用分野、さらにその進化によって予測される雇用問題等についての情報をつかみ、的確に正答を導き出せるかを問う問題です。情報を整理しながら全体の流れを捉えて読む必要があります。AIの劇的な進化が実際に自分たちの生活にどのような影響を与えるのか想像しながら読むとよいでしょう。

■採点講評

AIという、昨今話題のテーマではありますが、全体としての正答率はそれほど高くはありませんでした。例えば19の“robot shopping assistants”についての問題は、簡単そうに思えるかもしれませんが、本文を丹念に読まなければ正答にはたどり着けません。一般的な知識に頼りすぎないように注意しましょう。また、選択肢が英文の22も難しいと感じる人が多いかもしれません。このタイプの問題では、選択肢に使用されている単語を手掛かりに、本文の該当箇所をじっくり読むことが重要です。同じことを別の言い回しで表現することもありますので、単語・熟語の力も必要となります。

V

■出題のねらい

忍者のあまり知られていない側面について書かれた英文です。前置詞や接続詞などの用法、構文等を理解している必要があります。また、短い英文ですが、一般知識では解けませんので、内容理解のために英文を正しく読み解く力をつけていくことも重要です。

■採点講評

忍者という皆さんにとって馴染みのある話題で、全体としてよくできていました。ただ、の正答率が大変低く、不必要なものとして①の“as”を選んだ人が多かったです。ここでは“as opposed to their popular image”（忍者の一般的なイメージとは対照的に）となるように、③“reverse”を選ぶのが正答です。

講評

I

出典 掛谷 英紀「学者のウソ」

文系・理系それぞれの学問や学者が抱える諸問題を指摘し、解説した本です。難解な言葉はでてきませんし、論旨も明快ですから、文意をつかむのはさほど難しくありません。

問1【漢字の書き取り・読みの問題】（解答番号は①～⑤）

基本的な漢字です。「有無」はほとんどの人が書けていました。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は⑥・⑦）

空欄①は1行後の「学説の正当性の評価」が、空欄②は2行前の「主体と客体を完全に分離できない場合」や、直後の「外から眺める」がヒントとなります。正答率はそれぞれ6%、65%でした。空欄①で大多数の受験者が「正統性」を選択していましたが、「正統性」と「正当性」は意味が異なります。

問3【空欄補充問題・前後の文脈から適当なものを選ぶ】（解答番号は⑧）

空欄の直前の段落にある注意喚起による予測結果の回避の例としてどれが当てはまるかを考えれば正答は容易に導けます。正答率は41%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑨）

傍線部Aの直前の文をよく読めば正答は容易にわかるはずです。正答率は57%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑩）

傍線部Bの7行前から本文をよく読めば正答は導けます。正答率は56%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑪）

第3段落や2つ後の段落がヒントです。キーワードは「観察」、「実験」です。正答率は23%でした。

問7【指示語の内容を考える問題】（解答番号は⑫）

前後をよく読めば指示語の内容は容易につかめるはずです。正答率は91%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑬）

傍線部Eの前後の文をよく読めば正答が得られます。正答率は69%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑭）

予言の自己成就の例で、取り付け騒ぎと同じ例を選ぶ問題です。正答率は59%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑮）

1つ前の段落に正答が書かれているので1つ前の段落を読めば正答が得られます。正答率は48%でした。

問11【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は16）

この節は前節の最後の「文系学問の歴史を追うことで検証してみる」を受けて展開され、最後に「20世紀になると文系学問も急速に科学化されるようになる」と述べられています。この点を的確に踏まえることができれば正答は⑧だとわかります。正答率は22%でした。

問12【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は17）

大多数の受験者が①を選択し、正答率は12%でした。経済予測や経済学の理論的研究がうまくいっていないこと、「予言の自己成就」の問題、注意喚起と予測を混同させる論法など、著者が一貫して話題にしているのは「予測の社会的影響」ではなく「科学としての困難」です。

問13【内容合致問題】（解答番号は18・19）

正答率は①が55%、⑧が58%でした。②や④、⑨を選択している受験者が散見されました。②、③、⑦はいずれも3行目が本文の内容に合致しません。④は第4段落と反対の内容に、また⑤は最後から3番目の段落と反対の内容になっています。⑥は「世界の中で日本だけ」が本文に書かれていない内容です。⑨は本文に「心理学や認知科学などは、…人間を対象にした科学であるとみなすことができる」とあるので間違いです。

II

出典 伊藤 幹治「宴と日本文化—比較民俗学的アプローチ」

デュルケムの聖俗二元論を出発点として、アメリカ・インディアンなどの原住民社会の生活に季節が深く関わっていることを述べた文章です。キーワードとなる「季節」に注意しつつ読めば内容を整理することは難しくありません。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は20～25）

a 隔離 b 妖術 c 繁殖 d 寄稿 e 留意 f 析出

いずれも難解な漢字ではありません。書き取りの練習を日頃から心掛けるとともに文章の内容を踏まえるようにしましょう。

問2【空欄補充問題・文脈把握】（解答番号は26～28）

空欄Ⅰは空欄Ⅱとセットで考えるとわかりやすいです。空欄Ⅱの直後に「強化するための集団的な行事」とあるのがヒントです。正答は①です。空欄Ⅱと対比的な内容が入る空欄Ⅰは集団ではない語が入るので正答は⑤です。空欄Ⅲは傍線部Cの直前の内容がヒントで、正答は①です。

問3【文脈把握と内容理解】（解答番号は29）

傍線部Aの次段落にあるデュルケムの本の内容を理解する必要があります。正答は④です。正答率は26%でした。

問4【文脈把握と内容理解】（解答番号は30）

前段落最終行がヒントです。正答は②です。

問5【文脈把握と内容理解】（解答番号は31）

傍線部Cを含む段落の内容を読めば難しくありません。正答は②です。正答率は35%でした。

問6【文脈把握と内容理解】（解答番号は32）

次段落の内容を理解できれば正答を導くことは難しくありません。正答は③です。受験者の正答率は84%とよくできていました。

問7【文脈把握と内容理解】（解答番号は33）

傍線部Eでは、「狩猟＝採集」に着目していることに注意を促しています。何が足りないかということは、傍線部Eの直後に書かれているので、その内容を理解すれば正答できます。選択肢の間違った箇所を示しておきます。①「モース」②「当てはまるか」④「固執すると～」⑤「可能性も示唆～」⑥「信頼できない」がそれぞれ間違いです。正答率は67%でした。

問8【小見出し・内容把握】（解答番号は34）

季節の分類が他の民族にも適用されることを述べているので、正答は⑥です。正答率は31%でした。

問9【小見出し・内容把握】（解答番号は35）

聖俗の対立についてまとめているので正答は②です。正答率は33%でした。

問10【内容合致問題】（解答番号は36）

正答は③です。それぞれの選択肢の間違ってしている箇所を記しておきます。①「デュルケムの提示した聖と俗の概念は～基本概念」、②「善と悪のように」の例、④「カシム」は宿営地でない、⑤「モースが～注目した」という点、⑥「どこの世界」、それぞれが間違いです。正答率は30%でした。